



福岡県西方 沖地震

被災者救援に奔走！

玄界島など現場に急行、被災者を激励

3月20日午前10時53分に福岡、佐賀などを襲った福岡県西方沖地震に対応し、高橋雅成議員は同日、公明党災害対策本部の一員として、各地で被害の状況確認や被災者への激励に早速、駆け回りました。翌21日には、木庭健太郎、弘友和夫両参院議員、江田康幸衆院議員、県議団、福岡市議団とともに、壊滅的な打撃を受けた玄界島（福岡市西区）に急行。次いで同市西区の西浦被災現場を調査しました。一方、高橋議員ら調査団は市内各地に設けられた避難所を訪れ、被災者を見舞いました。

被災者の救済急げ

公明県議団が知事に要請

公明党福岡県議団は22日、麻生渡知事に対し、福岡市を中心に県内各地に大きな被害が出た「福岡県西方沖地震」の被害復旧と被災者救済対策を早急に実施するよう申し入れました。要望は、国による激甚災害の指定を

被害の大きかった漁港・港湾の早期復旧、整備 倒壊の危険のあるマンションなど集合住宅の建て替えに対して支援策を講ぜよ 避難住民のため、緊急避難的に県営住宅などの空き部屋の提供 特に被害が大きかった玄界島については、現地に国、県、福岡市合同の支援本部を設置し、ライフラインの早急な復旧をはじめ、仮設住宅建設、漁業者への支援、倒壊家屋の復旧などの総合的な支援策をなど11項目。同知事は「指摘の点は早急にやっていきたい。特に、一番被害が出ている



玄界島に対しては、ライフラインの確保や道路、住宅の復旧に全力を挙げ、漁業関係者だけでも島に戻り、漁業ができるようにしたい」と答えました。

22日、開かれた福岡県議会の予算特別委員会の席上、公明党は福岡県西方沖地震への県の対応をただし、被災者へのきめ細かい対応などを求めました。また23日の県議会常任委員会では、高橋雅成議員らが地震への対策強化を求めました。



地震によるマンション被害でも調査

福岡県西方沖地震のために福岡市中央区などでマンションなど集合住宅に大きな被害が起きている問題で、高橋雅成議員は、県議団、福岡市議団、前原市議らとともに、同市中央区今泉、前原市などのマンションを調査するとともに、住民から窮状を聞きました。

このうち、築5年という今泉の14階建てマンションは、壁に大きな亀裂が入り、玄関の鉄製ドアも無残に変形。部屋の中も柱や壁に何本も深い亀裂が走っていました。また、前原市の7階建てマンションは1階部分の駐車場の支柱に致命的な亀裂が入り、強い余震があれば倒壊の危険もある状態でした。都市型地震の特徴といえるマンション被害に対しては、建て替えなどへの支援策が求められており、高橋議員は、被災者の立場に立った救済策を行政に働きかけることを決意していました。



定例県議会 交通バリアフリーで質問

平成17年度の予算を決める定例県議会が2月23日に開会し、3月28日、閉会しました。企業の業績回復を反映し、県税収入の増収を見込んだものの、全体では4年連続の前年比マイナスとなる約1兆5023億円の予算を可決しました。

高橋議員は、一般質問でバリアフリーの街づくりの促進とノンステップバスの普及で交通バリアフリーを推進することを求めました。この中で、同議員は、福岡県のノンステップバスの普及率がわずか0.3%しかないこと

を指摘し、ノンステップバス導入の際に国と自治体が補助金を出す「公共交通円滑化設備整備費補助制度」の活用を促すとともに、県としてノンステップバスの普及を県内バス事業者積極的に働きかけるべきだと主張しました。

これに対し麻生渡知事は、「地元自治体とも協議し、積極的にノンステップバスの導入を図りたい。その環境を整えるため、助成制度の活用など事業者に促したい」と前向きな答弁をしました。